

平成27年度 学校評価書

山形県立鶴岡南高等学校

達成度

A：目標をはるか大きく超えている。 B：目標を超えている。 C：目標を概ね超えている。 D：目標を下回っている。 E：目標達成に遠く及ばない。

| 領域 | 重点目標 | 達成度 | 成果(○)と課題(●) | 学校関係者評価委員の評価・意見・要望 |
|-------|---|-----|---|--|
| 教務課 | SSHとしての教育課程の円滑な運用に努める。特に、研究開発校として重要な学校設定科目におけるカリキュラム開発や教材開発を支援する。 | C | ○●教育課程はトラブル無く運用されているが、SS科目等の研究開発はさらに進める必要がある。今年度末から取り組む予定の学校設定科目の報告集作成に合わせて、さらに研究を進める。 ○「生徒にメリハリのある生活を送らせ」 ○「生徒にメリハリのある生活を送らせ」「帰宅後の学習時間を確保する」ための下校時間徹底は概ね守られている。これを家庭学習時間増加に繋げることが課題。 ○年3回の研究授業期間、早期のシラバス発行など授業改善の取組みは定着している。SSH校として外部に公開する機会が多いことも、授業改善に繋がっている。 | C ・鶴南ゼミ発表会は素晴らしいものでした。定着と次の展開を期待します。 |
| | 学年団や各教科担当・部活動顧問と協力して、生徒にメリハリのある生活を送らせながら、家庭学習時間を充実させるための具体的な方策を実施する。 | C | | |
| | 成績処理システム・指導要録電子化・入選処理システムなどについて、安定運用のための改善を進める。 | C | | |
| | 授業改善のために校内研究授業・授業評価・シラバス等の活用を図る。 | C | | |
| | 関係業務の見直しを行い、必要性の高い業務に重点的に取り組む。 | C | | |
| 進路指導課 | 早期の進路希望確立を目的として、1,2学年のうちから大学オープンキャンパスへの参加を積極的に勧める。特に、本校生の希望の多い大学については、年1回以上引率を伴う見学会を実施する。 | C | ○センター試験では、総合で県内2位、上位層も多く健闘してくれた。国公立の推薦でも12名(東北3名、千葉2名、新潟1名、山大3名等)合格できた。○キャリア教育の一環として、アカデミックインターンシップをリニューアルし、1,3年生対象の起業セミナー&企業説明会の形態で行った。県やマスコミからも大きな反響があり、将来の職業観の育成につながった。 | C ・企業説明会に、介護の分野も入れてほしい。 ・アカデミックインターンシップは是非続けてほしい。 ・すべての生徒が目標を達成できるよう選択の幅が広がる取り組みを期待します。 |
| | キャリア教育の視点に立ち、職業観の育成や将来専攻する学問分野の決定を目的として、社会人や大学教員を招いての講演会や模擬授業を年2回以上実施する。 | B | | |
| | 超難関大学・学部学科10名以上、難関大学20名以上、国公立大学140名以上の合格達成に向けて取り組む。 | C | | |
| | SSH事業、進学指導重点校学力向上推進事業を効果的に進路指導に活用する。 | C | | |
| 生徒指導課 | 日頃からの生徒指導をとおり、“問題行動0、交通事故0、いじめ発生0”を目指す。 | C | ○アーチェリー男子団体がインターハイ優勝、設置外部の将棋の岡部君が総文祭全国優勝と華々しい成果を残した。他にも水泳部、陸上部、科学部が全国大会に出場した。○いじめアンケートでは数件の情報が上がったものの、その都度迅速に解決することができた。●ボランティア活動は、生徒会、委員会、部活などの単位での取組みが必要である。 | C ・スポーツボランティアとして大会運営を支える活動もある。何がボランティアなのか話し合ってもらいたい。 ・文武両道頑張っています。 |
| | 生徒会行事において、全校生徒の8割以上が達成感をもてる内容を目指す。 | C | | |
| | ロングホームルーム活動計画に「自他の生命の尊重」「心の豊かさ」等の心の育成につながる内容またはボランティア的な企画を、年間1回以上組み込む。 | D | | |
| | 部活動の全国大会へ団体3種目以上、個人5名以上の出場を目指す。 | B | | |

達成度

A：目標をはるかに大きく超えている。 B：目標を超えている。 C：目標を概ね超えている。 D：目標を下回っている。 E：目標達成に遠く及ばない。

| 領域 | 重点目標 | 達成度 | 成果（○）と課題（●） | 学校関係者評価委員の評価・意見・要望 |
|-------|--|-----|---|---|
| 総務課 | 「PTAの日」をはじめとするPTA独自事業に、より多くの参加が得られるような工夫を行う。また、PTA役員とのより良い連携のあり方を研究する。 | C | ○「PTAの日」の参加者が372名(62.8%)で目標の6割を達成できた。また、保護者による朝のあいさつ運動などで成果をあげた。○災害時の連絡体制を「マメール」という民間企業に委託し、順調に運用されている。○保護者アンケートは8割以上回収できた。また、保護者からの自由記述による要望に、学年便りを通じて、直ちに回答した。 ○校内倫理委員会を3回開催し、倫理観・規範意識の涵養や資質の向上に努めた。 | C ・多くの保護者の関心の高さが伺えます。参加できない、参加しない4割弱の保護者のフォローが課題です。 |
| | 防災マニュアルの定着をはかり、より実効性のある危機管理体制の構築を目指す。緊急時における職員間及び生徒・保護者との連絡体制については、業者委託を継続し、未登録者の減少に努める。年2回の防災訓練により生徒教職員の危機管理意識の向上を図る。また、新たに避難所開設マニュアルを作成する。 | C | | |
| | 学校評価のあり方(実施時期、分析方法、活用方法など)を検討し、8割以上の回収率を目指すとともに、校内反省会とのより効果的な連携のあり方を研究する。 | C | | |
| | 年2回の校内倫理委員会を通じて教職員の倫理観・規範意識の涵養をはかる。 | C | | |
| 保健課 | 清掃活動を徹底し、学習環境を整える。特に、行事の後や夏季休業中は、特別に清掃分担区を指定し、校舎内の美化に努める。 | C | ○夏季休業中は、特別清掃分担区を指定し、学年団と各部の協力のもと、清潔な環境を維持することができた。○保健だよりや食育ニュースの発行により、病気の予防や食育に関する意識を高めることができた。○スクールカウンセラーや他医療機関との連携により、該当生徒に適切な支援を行うことができた。また学年団との連携をもとに、共通理解と適切な対応に努めた。○毎月1回の学校医による健康相談により、教職員の精検率は向上したものの、依然として精検を受けていない職員が少なからずいることが課題となっている。 | C ・職員はしっかり検査して欲しい。 ・生徒の心身の健康は重要ですが、教職員の健康も重要です。何らかの対策を講じる必要があります。 |
| | 「保健だより」を隔月発行し、生徒に健康情報を提供する。また、食育に関する情報提供を年2回行う。 | C | | |
| | MC委員会を適宜開催し、メンタルヘルスケアに努めるとともに、学校カウンセラーとの連携を図り、該当生徒に適切に対応できるようにする。 | C | | |
| | 学年担任団や教科担任、家庭との連携を強化し不登校防止に努める。 | C | | |
| | 産業医との連携を強化し、職員の健康障害の防止及び健康の保持増進に努める。 | D | | |
| 図書情報課 | SSH・鶴南ゼミにおける図書・視聴覚教材・教具の効果的な活用を研究し、環境を整備する。 | C | ○校内の視聴覚教材の位置と数を台帳を確認した。○授業での図書館利用が増加した。○HPは昨年度に比べ更新の頻度は多くなっており、情報発信としての機能は強化された。○グループウェアの閲覧者は1日平均35名であり、登録者数50名のうち7割の先生が連絡の確認をしている。○消耗品代を学年に負担してもらった。●iPadは台数や、id取得の問題がある。 ●データの保存や発信に関して、倫理上のモラルを継続徹底していく。 | C ・学校にとって図書館はなくてはならないもの。最新の機器を有効に活用しながらの運営に期待します。 |
| | 図書館の利用促進及び読書指導の研究を行い、本校の特性にあった運営を図る。 | C | | |
| | 読書、図書館利用の習慣化を図るため、「LHR読書の時間」や「コンテストへの応募」などを実施する。 | C | | |
| | 鶴岡南高校の情報セキュリティポリシーの周知と啓蒙を行う。 | C | | |
| | 学校ホームページの更新をより活発にし、SSHなどの活動を積極的に発信する。 | C | | |
| | グループウェアの使い方・デザインなどを研究し、職員相互の情報共有を図る。 | C | | |
| 事務部 | 校内における事故防止のため、保健課との連携を図る。年8回以上の合同安全点検を実施する。 | C | ○安全点検を毎月実施し、問題箇所については速やかに対応して、施設・設備の保全と安全の確保に努めた。○電力使用量は、前年比-3%を達成できる見込みであるが、用紙使用が前年を上回っているため、増加原因の調査を行い次年度に向けて対策を検討する。 | C ・電力消費量-3%はすばらしいが、毎年目標にする必要があるのか。 |
| | 光熱水・用紙類の使用量は、対前年度使用量の維持に努める。特に、電力使用量については前年度比マイナス3%を目標とする。 | C | | |

達成度

A：目標をはるか大きく超えている。 B：目標を超えている。 C：目標を概ね超えている。 D：目標を下回っている。 E：目標達成に遠く及ばない。

| 領域 | 重点目標 | 達成度 | 成果 (○) と課題 (●) | 学校関係者評価委員の評価・意見・要望 |
|-------------|---|-----|--|--|
| 1 学 年 | SSH の趣旨に沿い、「探究」への興味関心を高めさせる。 | C | <p>○各種課題に積極的に取り組み、中間発表会の折にも主体的に質問をした。</p> <p>●心身の不調を訴える生徒が若干名見られた。</p> <p>○各クラスごと行事をするごとにまとまりを見せた。出席率は、99%を超え、皆出席者が100名を超え、大概の生徒が頑張って登校した。</p> <p>●学年PTA参加者は100名を超えて参加していただいたが、80%には満たなかった。</p> <p>●家庭学習時間が、3時間には及ばなかった。</p> <p>●模擬試験に於いては、7月、11月とも全体平均偏差値が56台であった。</p> <p>●提出物が期限を越える生徒がおり、改善が求められる。</p> | C ・全体的に達成度が低いようです。2学年時に向けて目標値の設定が低くなるのでしょうか。 ・目標達成に向かっている取り組みから課題が見えてくるのでしょうか。これからの子どもたちの自覚に期待します。 |
| | 単位未修得、長期欠席、いじめ「0」を目指す。 | D | | |
| | 出席率99%以上を目指す。 | C | | |
| | 保護者からの学校評価項目のうち、「各種相談や問い合わせに対して、教職員は親切で誠意をもった対応をしている。」の「あてはまる」が、60%以上になることを目指す。 | C | | |
| | 学年PTAの出席率80%以上を目指す。 | D | | |
| | 家庭学習時間が平均3時間となるよう指導する。 | D | | |
| | 模擬試験における全体平均偏差値60以上を目指す。 | D | | |
| 2 学 年 | SSH の趣旨に沿い、鶴南ゼミで自ら課題を設定し、調査研究を進め、その成果をわかり易くプレゼンテーションする力を養う。 | C | <p>○各グループとも、実験・調査・アンケート等を実施して課題解決の為の研究を概ね進め、中間発表会や台湾研修でもプレゼンテーションを立派に行った。</p> <p>●プレゼン内容に関する質問への対応力(質問想定力と、自分の研究のより深い内容理解)</p> <p>○●多くの生徒の出席状況は評価できるが、心身に問題を抱え欠席がちな生徒も見られた。</p> <p>●学年PTA出席者数：1学期末(約120名)、2学期末(約110名)であった。</p> <p>○進研模試平均点偏差値 7月：61.9(国数英) 11月：60.6(5教科総合)、61.4(5教科文系) 59.1(5教科理系)、60.4(国数英)</p> <p>●偏差値60台前半・50台の生徒の意識改革</p> <p>○●提出課題の質の向上は少しずつ見られる。提出後の、定着の為の復習の実施が課題である。</p> | C ・鶴南ゼミ、進路研修でのプレゼンは今後の進路に向けたスキルとして非常に有効と思います。いずれの項目もあとわずか目標達成と思えますので、今後期待します。 |
| | 進路研修(台湾)を通じて異文化理解を深め、英語でのプレゼン力を高めさせる。 | C | | |
| | 全員が全ての単位を修得して進級させることを目指す。 | D | | |
| | 心身を健全に育み、出席率99%以上を目指す。 | D | | |
| | 学年PTAを適切な時期に開催し、保護者の出席率70%以上を目指す。 | D | | |
| | 模擬試験における各教科の平均偏差値60以上を目指す。 | C | | |
| | 主体的な学習を促し、家庭学習の質(方法・徹底度)と量(3時間以上)を目指す。 | D | | |

| | | | | |
|-------------|------------------------------------|---|---|-----------------------------|
| 3 学 年 | SSHの趣旨に沿い、個々の能力や技術を向上させ、進路実現を目指す。 | C | <p>○ゼミ探求では、それぞれの進路実現に向け、主体的な活動を行うことができた。推薦やAO受験などに一定の効果があった。</p> <p>○学習に関しては、部活動引退後は、全体的に高い意識で学習に取り組むことができ、センター試験での好成績につながった。</p> <p>●最終の追試まで生徒を残してしまった。指導が至らなかったことが残念である。</p> <p>●全体的に問題なく生活を送ることができたが、一部生徒の配慮無い言葉で悩む生徒が出たことが残念である。</p> <p>○保護者から積極的にPTA等に参加していただいた。</p> | C ・3年間を通せば目標達成ではないでしょうか。 |
| | 全員が全ての単位を修得して卒業する。 | D | | |
| | 進路実現に向けて主体的な学習を促し、家庭学習平日4時間以上を目指す。 | D | | |
| | 模擬試験における各教科科目の平均偏差値60以上を目指す。 | D | | |
| | 心身を健全に育み、出席率99%以上を目指す。 | C | | |
| | 学年PTAの出席率75%以上を目指す。 | C | | |